

2日目 10月29日

会 場: しまなみ球場(広島)

第1試合		～1回戦～																	
T E A M		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	R	H	E
益 田		0	0	0	0	0	0	1	0	0							1	6	4
鳥取城北		2	0	1	0	0	1	2	0	X							6	15	0
(投手―捕手)																			
・ (益)		宮内 ― 俵																	
・ (鳥)		新庄→村山→吉田→甲斐→原田 ― 河西																	
(長 打)		(二塁打)							(三塁打)					(本塁打)					
・ (益)		大森																	
・ (鳥)		原田、石黒																	
(審判)〔球審〕		大下			〔一塁〕池田				〔二塁〕上戸田				〔三塁〕森						
(チーム成績)																			
チーム	打	安	点	二	三	本	振	四	犠	盗	残	併	守備	失	暴	ボ	逸	打妨	
(益)	38	6	1	1	0	0	10	6	2	1	10	1		4	0	0	0	0	
(鳥)	42	15	4	2	0	0	2	2	6	0	12	1		0	1	0	0	0	

「益田、序盤のミス響く」

試合は序盤から鳥取城北に流れが傾く。1回裏、先頭の前田の速い打球を一塁手が弾き強襲安打で出塁すると、犠打と内野ゴロで2死3塁となり、4番石黒の打球を遊撃手が弾き、失策で鳥取城北が先制する。尚も2死2塁で5番河西のセンターへの安打を中堅手が送球ミスする間に2塁走者が生還し、この回2点を挙げる。更に3回裏、1死1塁から連打で満塁とすると、6番三輪が2B1Sからスクイズを決め1点を追加する。6回裏にも、1死2塁から1前田の左中間を破る適時2塁打でリードを4点に広げた。

対する益田は6回まで鳥取城北先発の新庄のMax140km/hの直球に苦しめられ、得点を奪うことができずにいた。しかし、この回から継投した2番手の村山から3連続四死球を選び、無死満塁の好機を作る。鳥取城北もすかさず3番手の吉田に継投するが、8番佐々木悠が直球を捉えセンターへの適時打で1点を返した。しかし、後続を併殺と内野フライに抑えられ、好機を生かしきれなかった。

鳥取城北は失点直後の7回裏に先頭の2塁打を起点に、5番河西の適時打と8番吉田がスクイズを決め2点を返した。鳥取城北は5投手の継投で益田を振り切り準々決勝進出を決めた。

[illegible][illegible][illegible]